

2 本を選ぶ

場面：書店での会話

状況：ハルトとリナが話している。リナが最近読んだ本を紹介する

登場人物：

A (男性、ハルト)

B (女性、リナ)

- A: 本屋に来たの、久しぶりだなー。リナ、最近、本とかマンガ読んだ？
- B: うん、最近面白い本読んだんだ…ええと、この店にあるかな…ふふ、あった！これこれ！
- A: へー、「消えた笑顔」っていうんだ。表紙はちょっと怖そうな絵だね。どんな話なの？
- B: ミステリー小説なんだけど、今すごく人気あるんだよ。
- A: えー、ミステリー小説かあ・・・誰かが殺されて、犯人を捜したりするの？
- B: ううん、そんな怖い話じゃないんだけどね。ええと、学校で人気者の高校生の女の子が突然いなくなっちゃうの。学校にも来ないし、家にもいないの。それで、友だちが女の子を探すんだけど、どうしていなくなったか全然わからなくて。んで、女の子の部屋に行ってみたら、笑顔の子どもの写真と古びた日記が残されてて…
- A: 子ども？ああ、その女の子の兄弟とか？
- B: ううん。女の子は兄弟もいないし、彼女の両親も子どものことは知らないの。んで、友だちは日記を読んで、そこに書いてある人達に会いに行っ、女の子を探そうとするんだ。
- A: へえ、警察とか探偵みたいだね。
- B: そうなの。この友達はとても頭がよくて、日記を読んで、色々推理するんだよね。よく調べて、よく考えて、えーで、それで、日記に書かれた人たちに会ってたくさん話を聞いて…
- A: 最後は女の子を見つけるの？
- B: それは…言わない！ハルトも読んでみてよ。ほんと面白いし、最後はすっごいびっくりするから！
- A: そうなんだ！すごく気になってきた！おれも読んでみる！
- B: うん！結構長い小説だけど、面白いからすぐ読み終わっちゃうよ。